

8 おわりに

(1)「GAPをする」ことは経営の1手段

GAPは農業生産に関わる工程において農産物の安全、労働安全、環境の保全を図ることができるものであると同時に、在庫管理や資材の適正な保管、無駄な購入を防ぐなど農業経営をする上で大きなメリットを生みます。また、農作業事故や食品安全に関する問題等が起きなければ自らの経営が揺らぐことも少なくなります。

そしてGAPを取ることで高い価格で販売できたり、多くの取引先から優遇されたりするものではありません。しかし、GAPは今や安全な農産物生産であることの「証明」であり、世界の農産物市場を見ても取得を求める小売店も少なくありません。

認証の取得は審査費用がかかり、認証に必要な大量のデータ・書類が求められるので、整理するのに多くの時間がかかります。よって認証取得は需要側の要望があったり、経営者が必要だと考えたときに取得すればいいと思います。

しかし、上記したメリットを考えると認証を取得しなくても、「GAPをする」だけで多くの利点があります。よってGAPの手法を理解していることは、これから農業経営を行う、農業に関わる上で重要なことであると思います。

農業情勢は世界経済の動向や貿易の動きに影響を受け、日々変わっています。そのような時代において経営者として農業を行う上で必要なことは、農業生産を行う上での、経営を行う上での多くの「選択肢」を持つことです。地域の実態や時代の変化、生産環境の変化に対応して経営を行うための「手段」を数多く持つことが重要です。その意味でもGAP手法は知っておくべきものです。



(2) より安定的な農業経営に向けて

近年、GAPやHACCPなど食の安全に関わる認証制度や、管理体制整備の重要性が言われています。これから持続可能な農業経営を実現するためにも多くの知識・技術に早い段階で触れておくことが重要です。GAPを通して、GAPに関する知識技術はもちろん、農業情勢や社会全体の見方・考え方を身につけ良い農業経営者につながる能力をつけられるようにしましょう。